

じぶんのことだけではなく

小学一年 井口 文乃

わたしはまいにちでんしゃにのって、ともだち六にんで学こうにかよっています。

二学期がはじまってしばらくしたあるひ、げんごうのとき、わたしはころんですねからちがでてしまいました。そのとき、ひとりのともだちがほけんしつにつれていってくれました。そして、ほかのともだちにまっであげようよといってくれました。それからその子は、そのひはならいごとがあるのに、おかあさんにでんわをして、「ぶみのちゃんころんだのでかえりがおそくなる」といってくれました。

わたしはひとりでかえるのはまだこわいので、その子のやさしいきもちにかんしゃしました。ならいごとにちこくするかもしれないのに、おかあさんにそうだんしないで、じぶんでまっであげようときめたこともすいいなとおもいました。わたしだったら、ならいごとにちこくしたらどうしようとおわててしまったかもしれませぬ。

しんらんさまは、「じぶんだけがすくわれるのではなく、いのちあるものすべてがすくわれるみちをもとめられた」とえほんでよみました。みんながそんなやさしい子だったらみんなずっとなかよくい

られるとおもいます。

わたしは、しんらんさまのおしえとその子がしてくれたことをわすれないで、じぶんのことだけをかんがえるのではなく、ともだちのきもちをかんがえたり、こまっているともだちがいたらたすけてあげられる子になろうとおもいます。